

ロングパイルタオルにおける「うらぶつ解消法」

— うらぶつ解消法を用いたロングパイルタオル製品の開発 (R元~R2) —
 愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター 主任研究員 雁木 邦之*

パイル織物を製織する際に、パイル糸がパイルを形成したい面とは、反対側(裏面)に意図せず飛び出すことがあります。これを「うらぶつ」と呼び、タオル業界では「うらぶつ」の発生防止が課題となっています。そこで、製織条件がうらぶつ発生に与える影響について調査しそのた解消法を探りました。

一重織

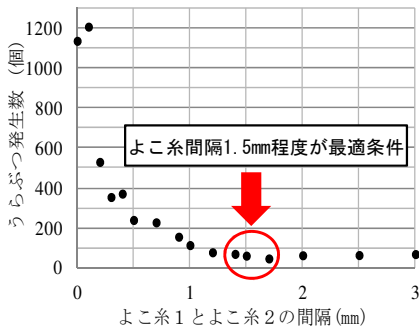


図1 よこ糸間隔とうらぶつ発生数

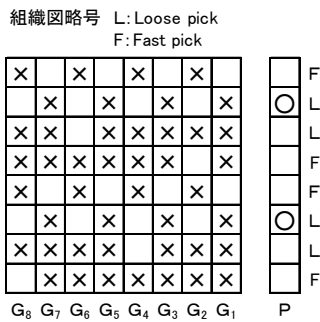
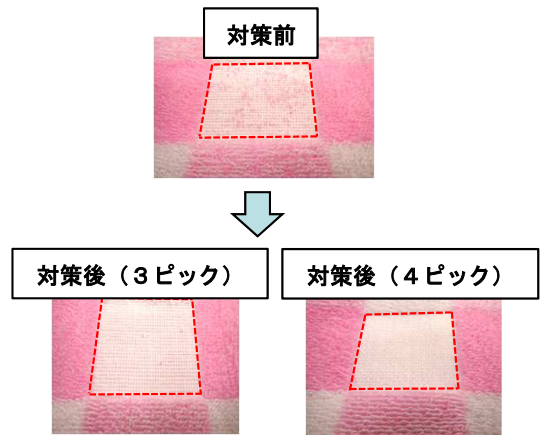


図2 4本よこ特殊タオル組織



＜一重織のうらぶつ解消法＞

- ① 3ピックアップパイルの場合、パイル長10mm以内は、よこ糸1とよこ糸2の間隔1.5mm程度が最適条件
- ② パイル長10mmをこえる場合は、「4本よこ特殊タオル組織」が有効

二重織

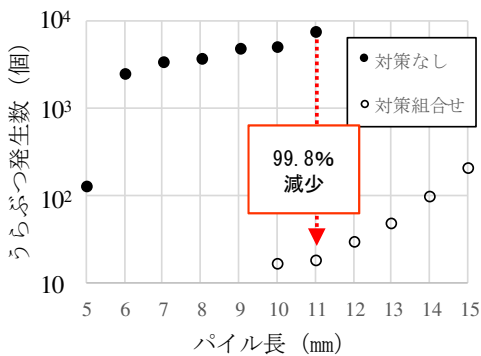


図3 うらぶつ対策を実施した場合のうらぶつ発生数

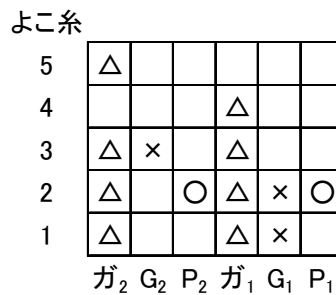
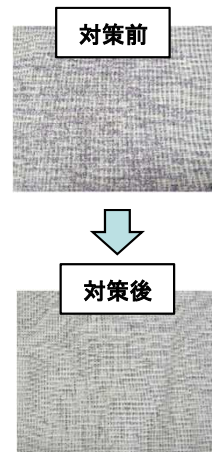


図4 二重ガーゼ織のタオル組織 (よこ糸3のみファーストピック)



＜二重織のうらぶつ解消法＞

- ① 一重織と同様に、よこ糸1とよこ糸2の間隔1.5mm程度が最適条件
- ② よこ糸5本完全の二重ガーゼ織の場合、ガーゼ側2本のよこ糸をルーズ長の中に配置すると効果的

うらぶつ解消には、よこ糸1とよこ糸2の間隔を1.5mm程度に設定するのが効果的です。二重織の場合は、ガーゼ側2本のよこ糸をルーズ長の中に配置すると、更に効果的です。ロングパイルの製品づくりの際に参考にしてください。

本研究は、うらぶつ解消法を用いたロングパイルタオル製品の開発により実施しました。
 * 現 寮業技術センター